学校番号	403

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	3単位	年次	1年次
使用教科書	数学Ⅰ Select （東京書籍）						
副教材等	Select Buddy ASSIST　数学I+A　（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

① 問題集用のノートを用意しましょう。
② 問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしましょう。答え合わせは、自分の弱点を知るための大切なものです。
③ 家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
④ 授業中のノートについては板書を書き写し、また、授業のポイントや自身で気付いたことやクラスメイトの発言した内容などをノートの枠外に記入していきましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

(1) 数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	数と式，図形と計量，2 次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量及びデータの分析を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章数と式	第 1 節 式と計算 ・多項式の加法と減法 ・多項式の乗法 ・因数分解	a:多項式の和、差、積や 2 次式の因数分解などの基本的な計算ができる b:ある文字について整理したり、式を 1 つのまとまりと見るなど工夫をして展開や因数分解をすることができる。 c:式変形の工夫について、他の解法に関心を持ち、より良い方法について考察しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

		第 2 節 実数 ・実数 ・根号を含む式の計算	a:実数の分類や絶対値、平方根を理解し、これらの計算ができる。 b:実数と数直線の関係や数直線上の 2 点間の距離について理解している。式の特徴に注目して、対称式の値を求めることができる。 c:数の体系を、計算の可能性と関連付けて、その包含関係などを整理し、考察しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
		第 3 節 1 次不等式 ・不等式の性質 ・1 次不等式 ・不等式の応用	a:数量の大小関係を、不等式を用いて表すことができる。 不等式の解の意味を理解し、不等式を解くことができる。 b: A＜B＜C の形の不等式の意味を正確に理解し，連立不等式とみて解くことができる。身近な問題に不等式を利用して解決することができる。 c: 現実の問題について，必要な条件を選んで数学化し，それを解決しようとする。また，得られた解を現実問題に当てはめ直し，それを考察しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
	第2章 集合と命題	・集合 ・命題と条件 ・論証	a:集合に関する基本的な用語や，集合の要素の表し方を理解している。命題の真偽の意味を理解し、判定できる。 b: 集合の包含関係を記号や日本語で正しく表現できる。 他人が考えた命題や条件文が妥当か判断できる。対偶や背理法を活用して命題を証明することができる。 c: 3 つ以上の集合についても，共通部分や和集合について考察しようとする。命題の真偽や必要条件，十分条件 について，集合と関連付けて理解したり説明したりしようとする態度がある。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

2学期	第3章 2次関数	第1節 関数とグラフ ・関数とグラフ ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定	a:関数の定義を理解し、可能な場合について式で表すことができる。2次関数のグラフをかくことができる。条件から関数の最大値と最小値を求めることができる。条件を満たす 2 次関数を求めることができる。 b:2次関数のグラフの平行移動について頂点の移動に着目し考察できる。定義域や係数に文字を含む2次関数について,適切に場合分けして最大値,最小値を求めることができる。2次関数を決定する際,問題に応じて適切な式の形を判断して使うことができる。 c: 関数のグラフの平行移動について一般的に理解し、式を作ることができる。数学の事象や日常生活の事象について,関数を用いて解決しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
		第2節 2次方程式・2次不等式 ・2次方程式の解法 ・2次方程式の実数解の個数 ・2次関数のグラフと x 軸の共有店 ・2次不等式 ・2次不等式の応用	a:2次方程式、2次不等式を解くことができる。2次方程式の解や2次不等式の解の種類の判断ができる。 b:2次方程式の解と判別式、放物線のグラフの関係を理解し、解の判別に利用できる。 c: 数学の事象や日常生活の事象について, 2次不等式を用いて考察しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
	第4章 図形と計量	第1節 鋭角の三角比 ・直角三角形と三角比 ・三角比の相互関係	a:三角比の定義を理解し、三角比の表や、相互関係、補角・余角の関係式を適切に利用することができる。 b:角の値によって、三角比の値がどのように増減するか表現できる。角の範囲に注目し、解の個数を適切に判断できる。 c:三角比の値が角の大きさだけで定まることに関心を持ち、日常的な事象を三角比を用いて解決しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

		第 2 節 三角比の応用 ・三角比と座標 ・拡張した三角比の相互関係	a: 鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や、鈍角の三角比の値を求めることができる。 b: 図形の構成要素間の関係について三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c: 三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
		第 3 節 三角形への応用 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積 ・空間図形の計量	a:三角比を用いて、条件から三角形の角や辺、面積などを求めることができる。 b: 四角形の問題を、2 つの三角形に分割し、求めることができる。空間図形から平面図形を取り出し，辺の長さや面積、体積などを求めることができる。 c: 正弦定理を用いる場合と余弦定理を用いる場合で解の吟味が異なることについて考察しようとする。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

3学期	第5章 データの分析	第1節 データの散らばりの大きさ ・データの分布とグラフ ・分散と標準偏差 ・分散，標準偏差の性質	a：データをヒストグラムや箱ひげ図などに整理し，データの傾向を把握することができる。データの散らばり具合を数値化する方法として偏差，分散，標準偏差を理解し，それらの値を求めることができる。 b：箱ひげ図を用いて複数のデータの傾向を比較することができる。データの散らばり具合を数値化する方法を考察することができる。分散や標準偏差を利用して複数のデータの散らばりの大きさを比較することができる。変量を変換した際に平均値，分散，標準偏差がどのように変化するかを考察し，それらの性質を利用することができる。 c：データの散らばり具合を数値化する方法を考えようとしている。統計量の性質について学んだことを，日常の事象の問題解決に生かそうとしている。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
		第2節 データの範囲 ・散布図と相関係数	a：2 つの変量の組からなるデータについて，散布図を用いて相関関係を捉えることができる。相関関係の大きさを数値で表す方法の考察を通して共分散と相関係数の意味を理解し，それらの値を求めることができる。外れ値を知り，外れ値の統計量への影響について理解する。 b：散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c：相関関係の大きさを数値化する方法を考えようとしている。相関関係と因果関係の違いについて考えようとしている。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

		第3節 データの分析と応用 ・データの分析を利用した問題の解決	a: 統計的手法を用いた問題解決の枠組みについて知っている。 b:目的に応じて複数のデータを収集し,適切な統計量やグラフや手法を選択して分析を行い,データの傾向を把握して問題解決に利用することができる。 分析の結果や方法を振り返り,さらに考察を深めることができる。 c: 社会の事象を数学的に捉え,統計的手法を用いて問題解決を図ろうとしている。 問題解決の過程を振り返り考察を深めたり,評価・改善したりしようとしている	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出
		第4節 仮説検定の考え方	a:具体的な事象において,仮説検定の考え方を理解している。 b:不確実な事象の起こりやすさに着目し,主張の妥当性について,実験を通して判断したり,批判的に考察したりすることができる。 c:社会の事象を数学的に捉え,統計的手法を用いて問題解決を図ろうとしている。	定期考査 単元確認テスト	定期考査 単元確認テスト 課題提出	課題提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度